



2026 年 8 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社リベルタ
代表者名 代表取締役社長 佐藤 透
(コード番号 4935 東証スタンダード市場)
問合せ先 専務取締役 二田 俊作
(TEL. 03-5489-7661)

2026 年 12 月期 第 2 四半期 (中間期) 連結業績予想値と 実績値との差異および減損損失の計上に関するお知らせ

2026 年 2 月 13 日に公表した 2026 年 12 月期第 2 四半期 (中間期) の業績予想値と本日開示の実績値に差異が生じたことおよび、減損損失を計上することとなりましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026 年 12 月期第 2 四半期 (中間期) 連結業績予想値と実績値との差異 (2026 年 1 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1 株 当 たり 中 間 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 5,535	百万円 △425	百万円 △490	百万円 △301	円 銭 △9.99
実 績 値 (B)	4,837	△375	△407	△303	△9.97
増 減 額 (B - A)	△697	50	83	△2	
増 減 率 (%)	△12.6	-	-	-	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (2025 年 12 月期第 2 四半期)	4,204	△135	△193	△201	△ 6.74

2. 差異の理由

売上高につきましては、予想を下回り 4,837 百万円 (前回発表予想比 697 百万円減) となりました。これは、コスメジャンルが「デンティス」の伸長や『ドン・キホーテ』向け限定商品の取り扱いの拡大とヒットにより計画を上回った一方で、機能衣料ジャンルについてホームセンターにて販路拡大が進むものの、前年と比較し夏季の気温上昇時期の遅れの影響により、スポーツ流通の販路でのプロモーション展開時期の遅れや EC 売上の未達により計画を下回ったことが要因となります。

利益面につきましては、上記売上高未達の影響で売上総利益が下回ったものの、広告販促施策の実施時期・内容の見直しなどで販売費及び一般管理費が減少したことにより営業損失は△375 百万円 (前回発表予想比 50 百万円増)、円安による為替差益の計上などで経常損失は△407 百万円 (前回発表予想比 83 百万円増) と、それぞれ前回発表予想値を上回る結果となりました。一方で、下記の通り特別損失として減損損失 71 百万円を計上したことなどで親会社株主に帰属する中間純損失は△303 百万円 (前回発表予想比 2 百万円減) となり、前回発表予想値を下回る結果となりました。

なお、通期の業績予想につきましては、前回公表した予想値を据え置いておりますが、今後業績予想修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

3. 減損損失について

2023年4月1日に株式を100%取得し完全子会社化し、2024年8月1日付で当社に吸収合併したフジアンドチェリー㈱に係るのれんについて、事業環境及び業績の推移並びに将来の事業計画を踏まえた結果、回収可能価額が帳簿価額を下回ると判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値にて測定していますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため、ゼロとして算定しております。

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。当社グループは、原則として独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位をグルーピングの基準にしており、連結子会社は各社をグルーピングの単位としております。

以上